

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ	対象学年・時期	2年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	<p>ディプロマポリシー3に基づく。日本における保健医療福祉の動向は、要介護人口の増加と認知症および精神科疾患の増加、医療的ケア児の増加に対応するために地域包括ケアシステムが整備されている。地域に暮らす人々の「暮らすこと、生きること」を支えるためには、予防的な側面からとらえることや、対象の生活を支えるためのシステムや施策を視野にいれ、問題解決的な思考力を用いた看護実践が必要である。同時に、自宅で暮らす対象(療養者本人とその家族)の現象を捉え、即時的に看護する臨床判断能力が必要である。</p> <p>本科目では、在宅の場において、対象に起こる症状や状況から健康上の問題点と解決策を考える思考力と、その場その時の状況を判断し対応する力を身につける。</p>		
授業形態	講義、演習		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における看護過程の展開方法が理解できる 2. 在宅看護における臨床判断が理解できる 		
授業計画	＜事前学修・事後学修＞		
	1回目 授業ガイダンス(授業全体、シラバスの説明) 在宅看護における看護過程の特徴	事前学習①：ALSの病態生理となりゆき ②：人工呼吸器と管理方法について ③：気管切開による人工呼吸器装着中の対象の看護 事後学習①：事例の健康知覚・健康管理パターンに関する情報の解釈・分析	
	2回目 健康知覚・健康管理パターンの解釈・分析の解説 基礎情報の整理・エコマップの解説	①各パターンごとの療養者・家族・地域の解釈・分析	
	3回目 各パターンごとの療養者・家族・地域の解釈・分析の解説	①看護問題の抽出	
	4回目 看護問題の抽出 個人指導 看護問題の優先順位の考え方	①看護問題の抽出(指導後)	
	5回目 看護計画の立案	①看護計画の立案	
	6回目 看護計画の立案 個人指導 援助の実践準備		
	7・8.回目 援助計画の実践と臨床判断、評価 リフレクション	※別紙「最終提出物」を参照	
使用テキスト・参考書	ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 メディカ出版		
事前学修・事後学修 (学習を促進できる学修)	<p>【事前学習】・看護を展開する思考技術(1年・後期)や他領域での看護過程の資料をよく読んで授業に臨む。</p> <p>・事例をよく読見込んで授業に臨む。</p> <p>【事後学習】・その日に学習した授業プリントやテキストの該当部分を見直す。</p>		
評価基準・評価方法	パフォーマンス評価(課題提出状況、看護過程展開の内容、臨床判断の演習評価)		
備考	課題は必要時に授業のときに伝えます。事前学習・追加学習を主体的に行いましょう。		